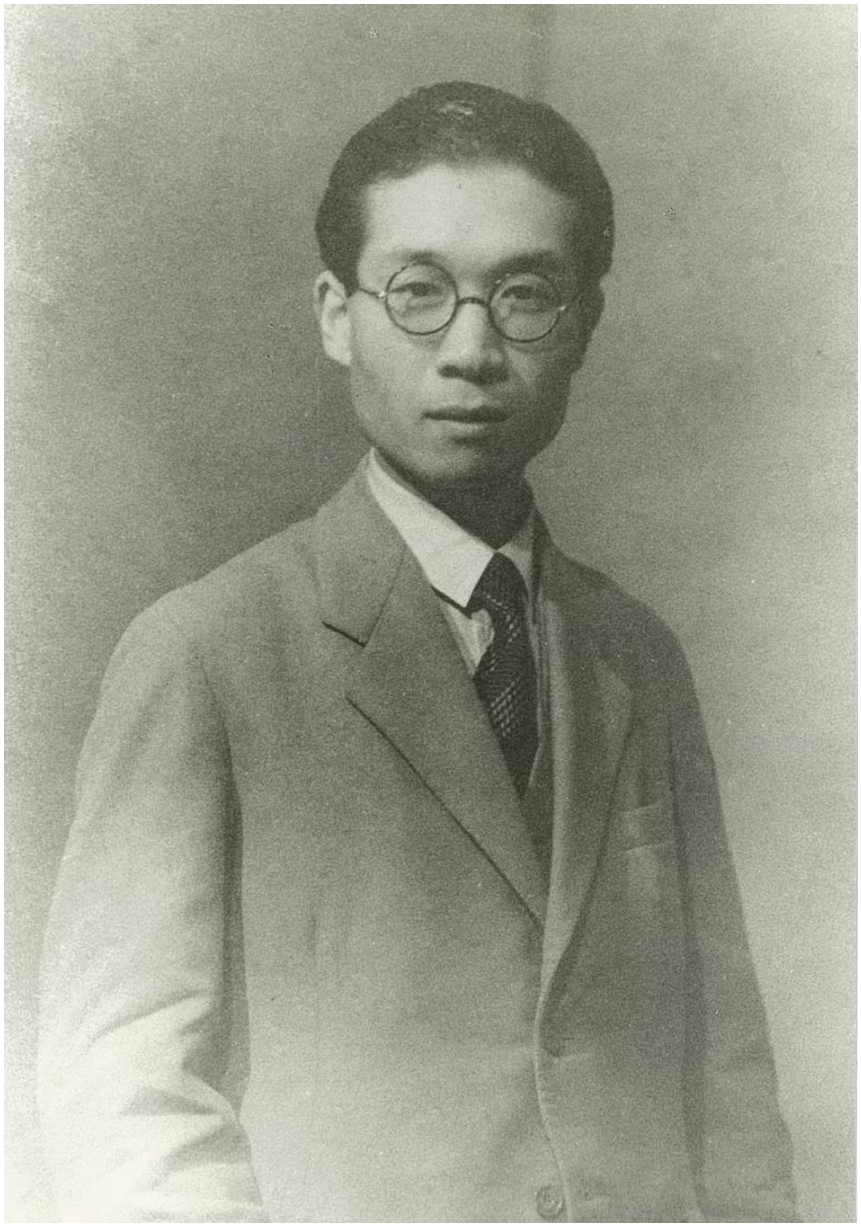
肥沼 信次



写真提供：松尾 奈津子氏

昭和20年(1945年)、第二次世界大戦終戦後、日本から遠く離れたドイツでは砲弾で破壊されたまちで伝染病が流行しました。その治療のために命を捧げた日本人がいます。八王子で生まれ、医学の勉強をするためにドイツへ渡った肥沼信次です。

肥沼信次の生い立ち

肥沼信次は、明治41年(1908年)10月9日、現在の東京都八王子市に生まれました。外科医の父・梅三郎は、八王子市内に肥沼医院を開いていました。梅三郎は信次に医院を継いでほしいと考えて、教育にはきびしかったそうです。医者である父親を近くで見てきた肥沼は、将来は自分も医者になりたいと思うようになっていました。また、アインシュタインやキュリー夫人を尊敬しており、14歳のころにはアインシュタインのいるドイツに渡って医学の勉強をしたいと思うようになりました。

肥沼は、第三尋常高等小学校(現・第三小学校)から東京府立第二中学校(現・都立立川高等学校)、日本医科大学へと進学しました。小学生のころは算数が苦手だったのですが、基本からしっかりと勉強しなおしたことで中学では得意科目となり、学校内でも評判でした。大学の卒業アルバムには、数学を趣味として上げるほど好きになっていました。

ドイツ留学と世界情勢

昭和9年(1934年)、日本医科大学を卒業後、東京帝国大学(現・東京大学)医学部放射線医学教室に入り、放射線の研究をします。医学教室の仲間とともに3つの研究論文を書き上げる中、ドイツ留学の話が肥沼に来ていました。父・梅三郎は医院の後継ぎにしたいと考えていたので留学に反対しましたが、肥沼の強い希望もありドイツ留学が決まります。そして、昭和12年(1937年)ベルリン大学放射線研究所の研究員になりました。憧れの地であったドイツでの研究の日々は充実したものであり、たくさんの優秀な論文を書き上げました。

ドイツに渡って2年後の昭和14年(1939年)、ドイツがポーランドを攻撃し、第二次世界大戦が起こります。当時、日本はドイツと同盟を結んでいました。連合軍が侵攻して、爆撃が激しさを増してきた昭和20年(1945年)3月、日本大使館はベルリンにいる日本人に帰国するように言いました。しかし、帰国する当日の集合場所に肥沼は来ませんでした。その後、肥沼はベルリンを離れ、エーベルスヴァルデに避難しました。

写真提供:松尾　奈津子氏

ヴリーツェン伝染病医療センター

昭和20年(1945年)5月、ドイツは連合国に敗戦しました。肥沼が避難したエーベルスヴァルデから少し離れたところにヴリーツェンというまちがあります。ヴリーツェンはポーランドとの国境に近いドイツ東部に位置する都市です。占領していたポーランドから追放されたドイツ人の難民が多くいました。まちは爆撃などで壊され、水道も使えず、とても不衛生な状態でした。そのため、発疹チフスやマラリアの伝染病が難民や住民たちに急速に広がりました。9月、ソ連軍地域司令部の司令官は肥沼を呼び寄せ、ヴリーツェンの伝染病医療センターの責任者に任命しました。センターには伝染病で苦しむ人があふれていました。自身にも感染する恐れがありましたが、肥沼はひとりひとりに寄り添い治療を行いました。治療のための薬や道具が足りなくなると、自らあつめて回り、周辺の村にも治療に向かいました。しかし、ついに肥沼自身もチフスに感染してしまいます。それでも患者を優先し、懸命に治療を続け、昭和21年(1946年)3月8日に37歳で亡くなりました。

その後

肥沼の活動が日本で知られるようになったのは、平成元年(1989年)に朝日新聞の「尋ね人」の欄に肥沼のことが掲載されたのがきっかけでした。弟の栄治さんがその記事を知り、ヴリーツェンの人々と肥沼の遺族の間で情報交換をすることができました。栄治さんは、ヴリーツェンの人々によって大切にまもられてきたお墓を訪ねたり、ヴリーツェンに桜の苗木を贈ったりといった交流を行いました。肥沼博士はその功績を讃えられ、平成6年(1994年)にヴリーツェンの名誉市民に選ばれています。そして、平成29年(2017年)、八王子市はヴリーツェンと友好交流協定を結びました。両市は交流を続けています。

西放射線ユーロードには
「Dr.肥沼の偉業を後世に伝える会」を
中心に全国のみなさんからの
寄付で建てられた顕彰碑があります。

調べてみましょう

ひとつのテーマについて調べる時、何冊かの本を調べることは、とても大切なことです。次にあげる参考文献は、図書館にある本の中で、小・中学生のみなさんにもわかりやすいものです。 自分で調べ、まとめてみましょう。市内のどの図書館に所蔵しているかは館内OPACで検索、または職員へおたずねください。

※☆印のついているものは、特に小学生におすすめのものです。

☆『ドクター肥沼ものがたり(絵本)』　田中尚子／作・絵　2019年

☆『ドクター肥沼ものがたり(紙芝居)』　田中尚子／作・絵　2018年

(上記の資料の内容は同じです。)

『日独を繋ぐ“肥沼信次”の精神と国際交流』　川西重忠／著　2017年

☆『ヴリーツェンの風のなかで』　なかむらちゑ／文　安藤香子／絵　2015年

わかりやすいやさしい文章で書かれた絵本です。

☆『世界にはばたく日本力　日本の医療』　こどもくらぶ／編さん　2010年

世界に知られた日本人を紹介しています。

☆『ドイツ人に敬愛された医師・肥沼信次』　舘沢貢次／文　加古里子／絵　2003年

『日本人の足跡 3』　産経新聞「日本人の足跡」取材班／著　2002年

『大戦秘史・リーツェンの桜』　舘沢貢次／著　1995年

編集・発行　八王子市中央図書館　令和元年(2019年)7月発行
令和4年(2022年)12月改訂